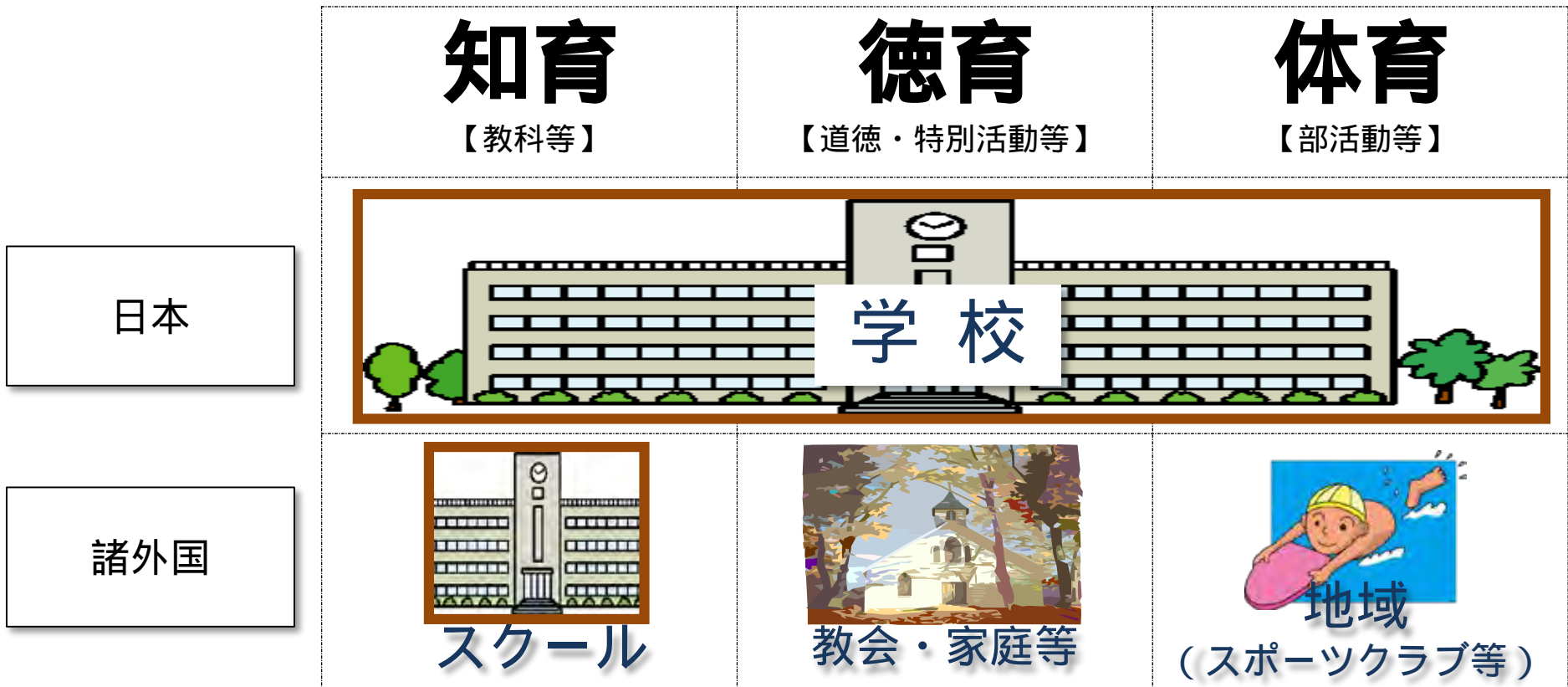


規制改革推進会議 公開ディスカッション 関係資料

平成31年3月11日
文部科学省

「学校」の在り方の国際比較（イメージ）

日本の「学校」と、諸外国の「スクール」の在り方は大きく異なる。
諸外国の教師の業務が主に授業に特化しているのとは異なり、
日本の教師は、教科指導、生徒指導、部活動指導等を一体的に行うことが本務。



体育...部活動は、日・中・韓は学校を中心に行うが、米・英は学校と地域で、独・伊・北欧は地域を中心に行う。

教師の職務内容（諸外国との相違点）

	徳育 【道徳・特別活動等】	体育 【部活動等】	その他
諸外国	<ul style="list-style-type: none"> 昼食時、教員は職員室で休憩をとり、子供たちの世話は給食スタッフや補助職員が担当。（英国） 給食の時間は、専任の給食スタッフが盛りつけ、配膳、片付けを行う。（イタリア） 給食は子供が食べたいものを選び、食べ残すことも自由。（米国・オランダ） 半日制が一般的で、学校給食はない。（ドイツ） 知育は学校、徳育（しつけ）は家庭と教会で行うという区別が厳格。（フランス） 出席管理や問題行動対応、生徒のメンタルケア、安全管理、規律維持、保護者面談等は生徒指導主任が行う。（フランス） 校内の掃除は清掃員が行う。（ドイツ、米国・オランダ） 	<ul style="list-style-type: none"> 体育は、週に1時限のみ、スポーツ団体との連携により実施。（イタリア） 放課後のクラブ活動はなく、地域のサッカークラブ等で活動。（ドイツ） 放課後のスポーツ活動は自治体又は市民活動団体が運営。（フランス） 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちはスクールバスで登下校する。（米国） 学校の登下校は必ず保護者やベビーシッターが付き添い。（イタリア） 保護者同伴での登校が一般的。（フランス）
日本	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会、遠足、学校行事、給食（食育等の観点からの給食指導）その他一連の活動が道徳教育の手段として作用。 掃除や当番などの労働的活動、委員会活動、様々な学校行事などの活動が人格的成長に寄与。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育は小学校から高校まで必須。 学校での運動部活動の実施が中心。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路等の安全指導を教師が実施。

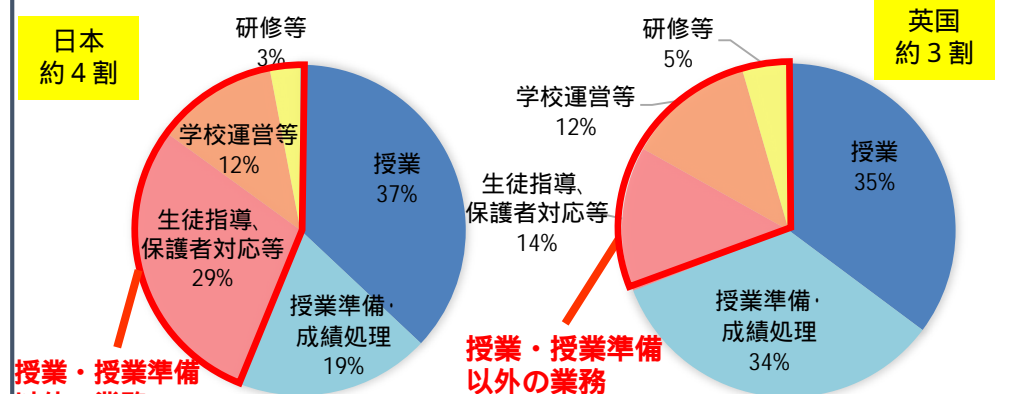
（出典）・外務省HP・・・（イタリア）ピステッリ小学校（2013年）、（米国）クラレンドン小学校（2014年）、エルマリノ・ランゲージスクール（2014年）

・「新版 世界の学校」2014年 二宮皓編著、学事出版

英国の事例

- 教員の職務内容は学校教員調査委員会の勧告を踏まえて政府が定める「教員給与及び勤務条件に関する文書」にて規定。部活動をはじめとした課外活動については職務とはされていないほか、昼食時の生徒監督を教員に求めることが禁じられている。
- 授業の計画・準備・評価の時間として授業時間の10%以上を確保することとされている。

< 授業・授業準備以外の業務時間の割合の比較 >



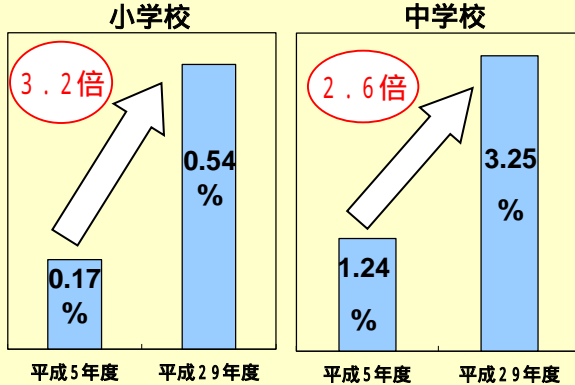
（出典）日本：文部科学省委託調査「教員勤務実態調査」（平成28年度）

イギリス：Department for Children, Schools and Families, "Teacher's Workloads Diary Survey 2013"

セーフティネットとしての学校の役割

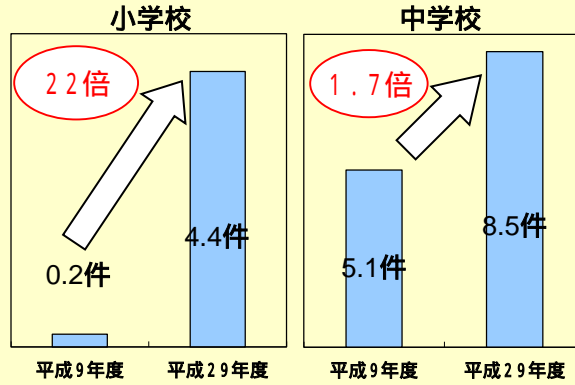
今日、学校が抱える課題は複雑化・困難化している状況。

不登校児童生徒の割合



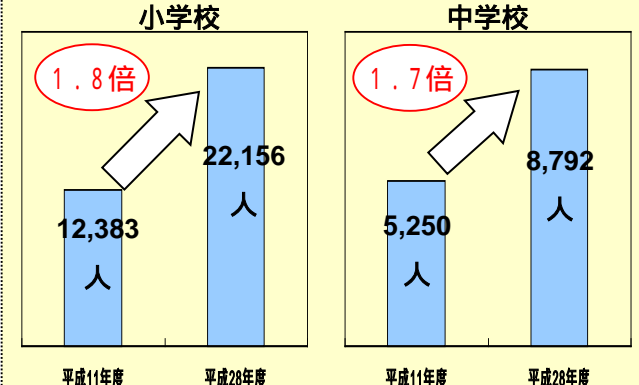
(注) ・国・公・私立学校のデータ
・平成5年度と最新の年度を比較

暴力行為1,000人当たりの件数



(注) ・平成9年度は公立学校、平成29年度は国公私立学校のデータに基づいた1,000人当たりの発生件数
・調査開始年度と最新の年度を比較

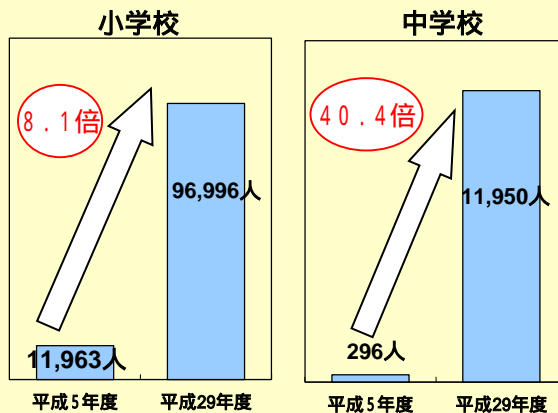
日本語指導が必要な外国人児童生徒数



(注) ・公立学校のデータ
・調査開始年度と最新の年度を比較

(出典) 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 (出典) 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 (出典) 文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」

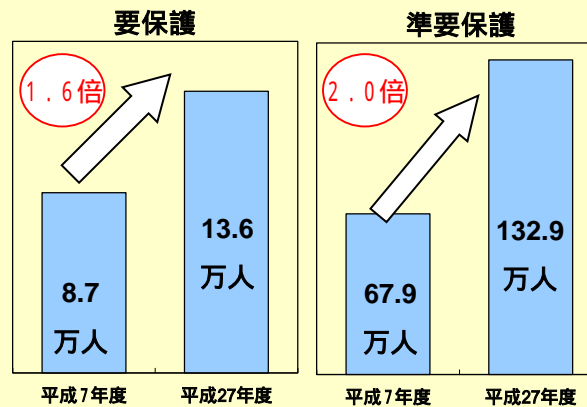
通級による指導を受けている児童生徒数



(注) ・通常の学級に在籍しながら週に1～8単位時間程度、障害の状態等に応じた特別の指導を特別な場で行う教育形態。平成18年度から通級による指導の対象にLD及びADHDを加えた。
・小・中学校における通常の学級に在籍する発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒の割合は、6.5%程度と推計されている。(平成24年文部科学省調査。なお、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものではない)
・調査開始年度と最新の年度を比較

(出典) 文部科学省「通級による指導実施状況調査」

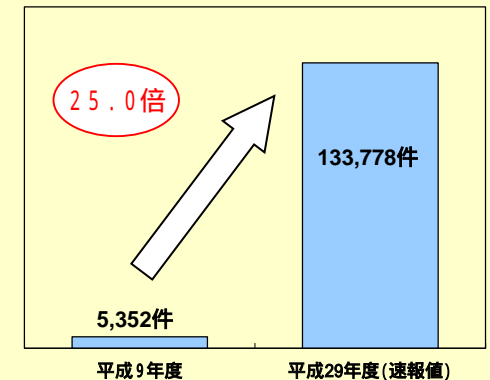
要保護及び準要保護(注)の児童生徒数



(注) ・要保護とは、生活保護を必要とする状態にある者をいい、準要保護とは、生活保護を必要とする状態にある者に準ずる程度に困窮している者をいう。
・調査開始年度と最新の年度を比較

(出典) 文部科学省調べ

児童虐待相談対応件数



(出典) 厚生労働省調査

学校や教師の役割の変化

学校や教師の仕事は拡大し、多様化している

かつての学校の役割

授業

生徒指導

部活動

学校行事

- 学校の役割拡大による業務量増
- u 家庭・地域の環境・教育力低下
 - u 児童生徒への指導の困難化
 - u 保護者対応の増加
 - u グローバル化・知識基盤社会化に伴う新しい教育への対応
 - u 説明責任の増大

現在の学校の役割

授業

環境教育
情報教育
消費者教育
小学校英語 etc.

生徒指導

部活動

学校行事

心理・福祉面の支援

通学路の安全確保

学校外での生徒指導

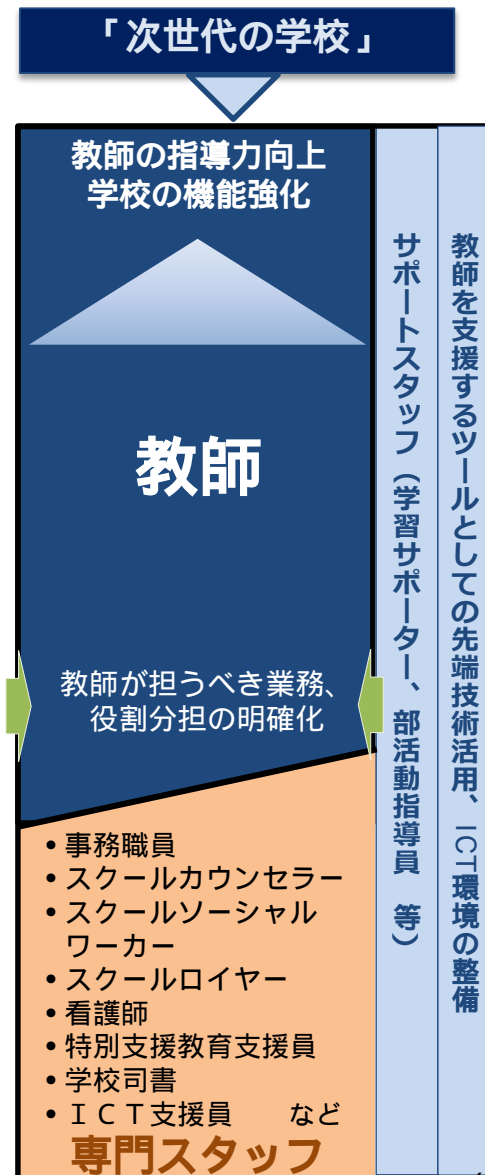
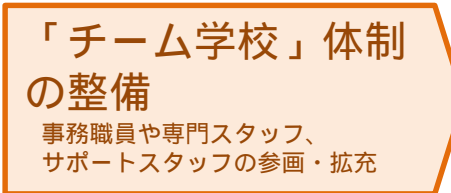
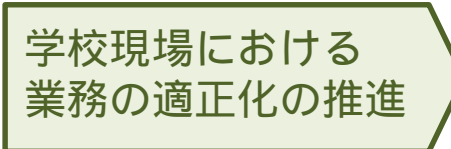
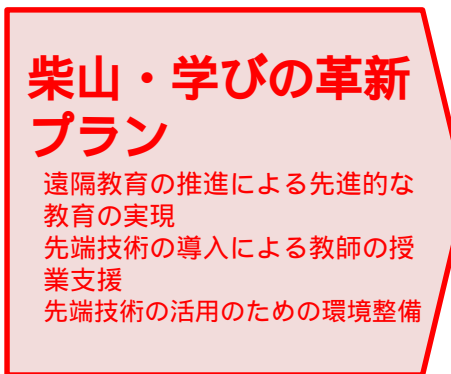
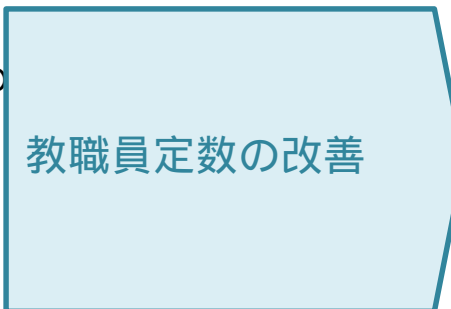
保護者対応

特別支援教育

学校評価・外部への説明責任

「次世代の学校」創生に向けて

- 必要な教職員定数の改善と同時に、
 - 学校現場における業務の適正化の推進や、
 - 「チーム学校」体制の整備（校長のリーダーシップの下、教師が専門スタッフ等と連携・分担）
- に取り組むことにより、「次世代の学校」の創生を目指す。



先端技術の活用について

新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて

～柴山・学びの革新プラン～

平成30年11月22日公表

Society5.0の時代こそ、学校は、単に知識を伝達する場ではなく、人と人との関わり合いの中で、人間としての強みを伸ばしながら、人生や社会を見据えて学び合う場となることが求められている。その際、教師は、児童生徒との日常的な直接の触れ合いを通じて、児童生徒の特性や状況等を踏まえて学習課題を設定したり学習環境を整えたりするなど、学びの質を高める重要な役割を担っている。

学びの質を高め、すべての児童生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、新学習指導要領の着実な実施やチームとしての学校運営の推進が不可欠。その中核を担う教師を支え、その質を高めるツールとして先端技術には大きな可能性。

今後の我が国の教育の発展には、学校現場における先端技術の効果的な活用を実現するための技術の進展と、学校現場における先端技術の活用の促進が必要不可欠。



教師



先端技術



Society5.0時代の
教育

読解力、対話力、科学的思考力、問題解決能力、
創造性、好奇心・探求心、リーダーシップの育成など

教師を支援するツールとして先端技術をフル活用することにより、すべての児童生徒に基盤的な学力や他者と協働しつつ自ら考え抜く力を育むとともに、新たな社会を牽引する人材を育成する質の高い教育を実現。



「遠隔教育の推進に向けた施策方針」(2018年9月)も踏まえ、

質の高い教育の実現のための先端技術の活用を推進

教育再生実行会議に提案し、ご議論いただく予定

新学習指導要領の着実な実施
チームとしての学校運営

により、子供たちが、自ら問題を見だし、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ環境を実現

1. 遠隔教育の推進による先進的な教育の実現

～2020年代の早期にすべての小中高高校で活用できるように～

教師による質の高い教育を実現するため、

様々な状況に対応した教育の充実(小規模校、中山間地、離島、分校、複式学級、病院内の学級)

特別な配慮が必要な児童生徒の支援(病気療養、不登校、外国人、特定分野に特異な才能を持つ児童生徒等)

教育の質向上のための優れた外部人材の積極的活用(グローバル化に向けた外国語、情報教育等)

上記を推進するため、指導體制の充実を図りつつ、

・遠隔教育のグッドプラクティスの全国的普及

・民間企業・大学等の遠隔教育に関するノウハウ・技術の集約・活用を促進

・中学校の遠隔授業におけるニーズの高い分野での実証的取組の実施(新しいタイプの特例校創設)
～英会話、プログラミングで受信側の教室にいる教師を支援～

・免許制度の弾力的な活用による社会人等の積極的な登用

等

2. 先端技術の導入による教師の授業支援

教師支援のツールとしてビッグデータの活用などによる児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
指導力の分析・共有、研修への活用などによる授業改善など教師の資質能力の向上

上記を推進するため、

・先端技術の効果的な活用に向けた実証的取組(スタディ・ログの活用等)

・学校・教育委員会と民間企業等が連携した先進事例の収集・情報提供

等

3. 先端技術の活用のための環境整備

「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」を踏まえた学校のICT環境の整備促進

関係省庁・民間企業・大学等と連携した先端技術導入のための環境の構築

上記を推進するため、

・先端技術を含むICTに関する専門的な知識・技能等を有する人材の活用

・全国学力・学習状況調査等のデータ利活用促進と情報セキュリティ確保の両立に向けた検討

等

先端技術の効果的な活用

先端技術を活用するために、どのような場面で使うことが効果的なのかについて整理した基本的考え方や教育に関する様々なデータをどのような共通指標で収集・分析していくべきか、今後整理。

技術の活用を通じて、教師や児童生徒を支援し、**アクティブ・ラーニング**を推進。
学習指導要領が目指す**資質・能力の育成**につなげる。

- 授業改善支援 (理解度や関心を踏まえた授業展開)
- 学習支援 (全員一律のドリルや宿題からの脱却)
- 生活支援 (体調や人間関係、いじめや不登校傾向の把握)
- 校務支援 (必要な書類作成の手間を削減、働き方改革)
- 政策改善 (データに基づいたEBPMの推進)

Innovation (革新)

これまで不可能だったことが可能になり、教育に革新をもたらす

ビッグデータ

- BDを活用した指導計画や指導案のリコメンド機能活用
- 公正に個別最適化された学習

センシング

- 音声認識による議論状況の把握
- 表情認識による生徒指導支援

Enhancement (拡充)

これまで非常に手間がかかるため、行われていなかったことが、行われるようになる

オンライン教育

- 遠隔教育による学校外リソースの活用
- 遠隔教育による病児等への学習機会確保

スタディ・ログ

- 学習履歴の蓄積
- 認知傾向分析 (躰き把握等)

Simplification (簡略化)

これまで手間がかかっていたことが、より簡単・便利にできるようになる

協働学習支援
ツール

- 協働でレポートを作成
- 意見や回答を即時に共有

AIドリル
(アダプティブ・ラーニング)

- ドリル学習 (自動出題、自動採点)
- アプリを活用した英語発音チェック

校務支援システム

- 校務支援システムを活用した指導要録等の作成

学習指導要領の改訂について

学習指導要領改訂の背景

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な知識や力を
確実に備えることのできる学校教育を実現します。

人工知能(AI)が飛躍的に進化する中、**我が国の学校教育が育む「人間の強み」**が明らかになっています。

近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っています。

こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものです。



新しい教育課程では、**学校教育のよさをさらに進化**させていきます。

- これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込みます。これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有して「カリキュラム・マネジメント」を行ったりしやすくなります。
- 生きて働く知識や力を育む質の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特質を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にします。これにより、教科の特質に応じた深い学びと、我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善を実現します。

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に

例えば、**技術・家庭**で...



木材を使用して生活の問題を解決する授業

家族が使う棚や椅子を製作する際に、つくりながら、うまくいかないところを修正したり、よりよいものを目指して改善したりしていく必要がある。



具体的な手立て(例)

- ・使う人のニーズを確認し、製作することの大切さに気付かせる。
- ・必要な作業手順を考えさせ、完成への道筋のイメージをもたせる。
- ・つまづいている生徒を励まし、修正の手立てを助言する。
- ・作業を振り返る場面を設け、生徒同士で、工夫された点や改善した方がよい点を挙げさせる。

授業改善の視点

どうしたら、見通しをもって作業したり、粘り強く考えたりすることができるだろうか。

「**主体的な学び**」の視点

周りの人たちと共に考え、学び、
新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

例えば、理科で...



物の溶け方の授業

「水に溶けた食塩のゆくえ」について、グループに分かれて、蒸発させる・重さを測るなど、様々な方法で調べ、考えた結果をグループ間で共有する。

授業改善の視点

どうしたら、グループ間の議論を深め、
様々な視点で考えを深めさせられるだろう
か。

「対話的な学び」の視点

具体的な手立て(例)

- ・「こうなるはずだ」という結果の見通しをもって実験を行うようにする。
- ・実験の結果から考えたことの妥当性を検討する場を設定する

一つ一つの知識が相互に結び付いて、
「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

例えば、**社会**で...



安土桃山時代についての授業

鉄砲やキリスト教の伝来、楽市楽座、検地や刀狩りなどの政策、南蛮貿易や朱印船貿易、明や朝鮮との関係、豪商の活動等に関する**知識が相互に結び付く**よう、「**桃山文化の特徴が生じた背景を、政治や社会の変化から説明しよう**」などの**問いを立て**、海外の技術の導入が及ぼした大名の**経済政策への影響**や統一事業の加速、アジア貿易の広がり**と豪商の経済的な成長**などと、桃山文化の**壮大で豪華な特徴**やその担い手との**関係**について、生徒が**考察、表現**することを通して、**時代の特色について深く理解**する。



具体的な手立て(例)

- ・推移、変化、背景や原因、影響などに着目して多面的・多角的に考察する「見方・考え方」が含まれた課題(問い)を工夫する。
- ・考察の根拠となる資料(文章、絵、映像、遺物等)を用意し、様々な立場から話し合う場面を設定する。
- ・つまづいている生徒には、資料を読み取る際の視点や考察を促すような視点を示唆して、意見を形成できるように助言する。

授業改善の視点

どうしたら、グループ間の議論を深め、
様々な視点で考えを深めさせられるだろう
か。

「**対話的な学び**」の視点